

平成 29 年度第 1 回総合戦略推進委員会 議事概要

日 時 平成 29 年 9 月 6 日（水）13 時 30 分～15 時 08 分

場 所 魚津市役所第 1 会議室

出席者 魚津市総合戦略推進委員 17 名（欠席 1 名）

市長、企画総務部長、企画政策課長、企画政策課長代理、企画政策課員 2 名

課 長 定刻となりましたので、ただ今から第 1 回総合戦略推進委員会を開会します。

本日の会議は 1 時間半程度を予定しています。

私は魚津市企画政策課の赤坂と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、皆様に魚津市総合戦略推進委員会委員の委嘱状を交付いたします。

お名前をお呼びしますので、お手数ですがお席でお立ちください。

（市長より各委員に委嘱状交付）

課 長 それでは開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。

市 長 今ほど皆様に委員の委嘱をさせていただきました。引き続きお願いする方、今回新たにお願ひする方、それぞれいらっしゃいますが、よろしくお願いいたします。

皆様もご承知のとおり、魚津市人口ビジョンでは 2060 年に人口規模 3 万人を維持することを目標としています。

社会人口問題研究所の推計では 2060 年で 23,453 人という見通しが示されており、これは毎年約 1 %、魚津市の場合、約 450 人ずつ減っていくという数字になります。

3 万人を維持するという目標を達成するには、450 人ずつの減少を 300 人程度にとどめる、つまり 150 人の差を埋める必要があります。

人間の数だけを議論するわけではありませんが、社会のいろんなシステムを維持していく時に基礎になるのはやはり人口です。8 月に開始したタウンミーティングでもまずこの話をしています。

魚津市の出生数は年間約 270 人で、これを 150 人増やすのはすぐには不可能です。現在、産科の整備に向けて取り組んでいますが、整備してすぐに出生数が増えるものではありません。自然増を図りながらも、魚津以外の地域からの流入を増やす取組をやっていく必要があります。

例えば年間 10 人の自然増をするとすれば、残り 140 人をどうやって外から持ってくるか、そういう議論を皆さんとしたいと思っています。

企業誘致をするということもそうですし、あるいは幅広い世代を対象として、シルバー世代の移住を促すというのもよいと思います。

それぞれ具体的な取組を皆さんと一緒に作り上げていく段階に来ていると思っています。

そういうことに向けた取組をオール魚津でやっていくという意識を共有してやっていければと思っています。

市としても民間の皆さんと協力してしっかりやっていきたいと思っていますので、皆さんのお力添えをよろしくお願いいたします。

課 長 続きまして、本日までご出席いただきました皆様方のご紹介をさせていただきたいと思います。

(委員の紹介)

市長は公務が重なっているため、ここで退席させていただきます。
引き続き、事務局職員の紹介をいたします。

(事務局職員の紹介)

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めたいと思います。
次第の6番、本会の会長の選出を行いたいと思います。どなたか推薦などございますか。
特にないようでしたら、事務局から指名させていただきたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なしの声)

では、富山大学学長補佐の秦正徳様に会長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

会長席にご移動ください。会長より一言ご挨拶をお願いします。

会 長 改めまして、こんにちは。楽しくみんなで考える会になればと思っています。活発な意見、あまり批判的ではなくて前向きな意見をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。

課 長 それでは、この後の進行は会長をお願いします。

会 長 次第に沿って進めてまいります。

7. 議題の(1)魚津市の人口動態状況及び魚津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン、総合戦略の概要について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料1について説明)

会 長 ありがとうございます。

何かご質問があればお願いします。

特になければ、(2)総合戦略の実施状況について説明してもらった後にまた意見交換できればと思います。事務局からの説明をお願いします。

事務局 (資料2について説明)

会 長 それではここまでで何か質問などございますか。

人口の減り方を見ると、27年度はマイナス420人で28年度はマイナス366人、減り方が緩やかになっているということは良い方に解釈してよいのでしょうか。

事務局 出生数が前年より増えたのもありますが、死亡者が少なかったのが主な要因と考えています。転出入のマイナスは他の年と大きな差はありません。

会 長 出生数が20人増え、死亡者が40人減ったことで、60人の人口動態の改善になります。先ほど市長が150人と言われましたが、もう少し頑張れば何とかなのではないかという感じがしますね。
皆さんから何かありますか。

委員 A 資料1の④【転出入の状況】を見ると、転出超過が最も大きいのが富山市、次いで滑川市、入善町となっており、一方で黒部からの転入がプラスになっている。これらの理由を市で検証しているのでしょうか。また、その検証結果を、例えば資料2の4ページに住宅取得支援事業がありますが、こういったものに生かしているかどうかについてお聞かせください。

事務局 富山市への転出者が多いのは、勤務先の関係ではないかと考えています。
市民課で転出入者を対象にアンケートを実施しています。
他から人を呼び込むことも大事ですが、魚津市から出ていかないような取組も必要ということで、住宅取得支援事業の対象を当初は市外から転入してくる人を対象にしていたのを、市内在住者も対象にするという見直しはしています。

会 長 転出を防ぐという視点は大切ですね。
他にございませんか。

委員 A 住宅取得支援事業に関連してもう1つお聞きしますが、増改築は補助対象にならないのでしょうか。新築というのはハードルが高い場合もあると思うので、そういう部分に対する補助がってもいいのかなと思いました。

事務局 数年前にリフォーム助成を行っていたことはあります。この時は関連業種への波及効果も見込み、経済対策という面がありました。現在は行っていませんが、人口減少対策としても効果的かどうか、また検討していきたいと思います。

委員 A 他から人を呼び込む時には、増改築も補助対象にしてアピールしていく必要があるのかなと思います。

会 長 他にございますか。

委員 B 転出入の状況には結婚によって転居した人も含まれるのですか。

事務局 含まれます。
それと補足になりますが、先ほど資料1の④転出入の状況の説明で、県内では富山市への転出が一番多いという話をしましたが、合計の上の県内・県外の区分で見ると、県内よりも県外への転出が大きいことがわかります。

これは魚津市だけの話ではありませんが、高校卒業時に進学で転出した若者が卒業後に戻ってこないというような状況が数字に表れています。

それから、資料1③の折れ線グラフを見ると、2005年だけ転入が転出を上回っています。これはパナソニックが大型の設備投資をして県外から多くの社員が転入してきたことによるものです。近年で社会動態がプラスになっているのはこの年だけになります。

会 長 2013年も転入と転出がほぼ拮抗していて特徴的に思えますが、何かあったのでしょうか。

事務局 ちょっとはつきりしたことはわかりません。

委員 C これは市への要望ですが、事業担当課による評価については、外部の意見を聞いてほしいと思います。

例えば、資料2の2ページに資格取得助成事業というのがあります。

担当課の評価がB（事業の進め方・内容について改善の余地あり）となっていて、その後の文章のただし書きに「現行制度では企業に勤める市外の者の資格取得についても助成対象としていることから、制度の本来の目的を改めて踏まえながら、見直しを行う必要がある。」と書いてあるのですが、会社・企業があってこそ魚津市だと思いますので、市外から来ている社員だから対象にしないという考え方はおかしいと思います。また、現在対象外になっている労務管理や環境保全も対象にしてほしいと思います。

それから3ページの創業者支援事業の③家賃助成についても、最長36か月だったのを29年度から24か月に短縮され、来年以降もさらに短縮されるという話も聞いています。

事業担当課の考え方もあると思いますが、外部の意見も聞きながらよりよい制度にしてもらいたいと思います。これは要望として言わせていただきます。

事務局 要望として承ります。

実情を言うと、当初は人口ビジョンを作って、その実現に向けて総合戦略を立てて事業を進めていくにあたって、国が財源手当するというので27年度は10分の10の財源が確保されていました。

しかし、28年度からは補助金などの給付的なものは対象外となるなど要件が厳しくなり、補助率も2分の1になりました。

総合戦略に記載している事業は、国からの財源手当を念頭に組んでいた部分もありますので、補助対象外になった事業については全額市の負担で実施している状況です。

家賃助成で言えば、36か月の方が喜ばれるのはわかっていますが、市が全額負担で続けていくのは限界があります。各方面の意見を聞いてしっかりと効果を検証し、一方で財源的なことも踏まえながら、事業を見直すかどうか判断していきたいと思っています。

会 長 皆さんはいかがでしょうか。

市外の方にも資格取得助成をしているのを見直してはどうかという自己評価があって、それは見直さなくてよいのではないかというご意見でしたが、皆さんはいかがですか。

数字を見ますと、資格取得助成、創業者支援も目標値を大幅に超えていますね。効果があるとみていいのではないかと思います。

委員 C 担当課の評価だけではなく外部の意見を聞いてほしいという要望の中で、例として挙げただけで、この場で制度をこうしてほしいという意味で言ったわけではありませんので。

会 長 わかりました。自己評価にとどまらず外部の意見を聞くという点は私も同意見です。他にございますか。

委員 D 先ほど事務局の話の中で効果検証や財源に言及されましたが、費用対効果を確認できるようなものがこの資料にはないように思います。税金を使って何をどうやるのか議論する時に大事なのではないかと思います。

事務局 ご指摘のとおりです。
どのように費用対効果を示すことができるか検討します。

会 長 KPI を設定しているので、事業費に対してどれだけ KPI が伸びているかで測ればよいのではないのでしょうか。
他にいかがですか。

委員 E 資料 2 の説明の中で、市民アンケートを実施しているということでしたが、アンケートは郵送で行っているのでしょうか。最近はウェブ調査も進んでいるので、若い人はそちらの方が回答しやすいのではないかと思います。どのように考えておられますか。

事務局 現在は全て郵送で行っています。
国勢調査のように ID とパスワードを配付して、PC やスマホから回答できるようにすれば、若い人の回答率も上がるのではないかと思います。それを市民アンケートでやろうとすると、システム構築などに予算が必要になるので実施には至っていないというのが現状です。どうやれば若い人の回答率の向上につながるか頭を悩ませています。

会 長 回答者の分布は把握していると思うので、そういうデータを示してもらってもよいですね。他にございますか。

委員 F 市長は 150 人の差を埋めるために、子どもを産んでもらう、他から来てもらう、そのためにどうしたらいいか考えてほしいと言われました。

県内市町村間での転入転出が多い少ないということよりも、都市圏から魚津へ来てもらうことを考えるべきだと思います。

魚津は土地がないので大企業の誘致は難しいと思いますので、市長もおっしゃるように IT 企業などの誘致にシフトして行ってほしいと思いますし、指標の中であまり効果が出ていないものはしっかり見直して行ってほしいと思います。

会 長 事務局の方いかがですか。

事務局 おっしゃるとおりです。
出生数や転入を増やすことは、市長の 5 つの特定政策分野とも深く関わっています。U タ

ーンやIターンなどによって若い年代、つまり子どもを持つ年代の人口が増えれば、出生数の増加にもつながります。

毎年の予算編成の中で事業の検証をしながら、この事業には重点的に予算を配分する、逆にこの事業は廃止するというような作業をしています。

委員 F 基本目標3の「子どもを産み、育てることに喜びを感じられるまち魚津を目指します」のKPI「縁結び応援事業による婚姻成立組数」がゼロとなっていて成果が出ていません。

これは市の取り組み方の問題があると思います。市としてはあまり力を入れていないのではないのでしょうか。男前セミナーやスイーツパーティーを開催していますが、それよりも縁結び事業にしっかりと人とお金をかけた方が効果が上がるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

事務局 いろいろ苦慮しているところです。

行政が関わる分野ではないという意見も一方である中で、行政が責任を持ってこうした場を提供することが安心感につながり、参加する方もおられるようです。最近男性が積極的でないということで、女性とうまくコミュニケーションが取れるように、男性対象のセミナーを開催したりしています。

委員 A 「婚活セミナー」だと身構えてしまうので、狙いは「婚活」だとしてもあまりそれを表に出さないようなやり方がよいのではないのでしょうか。

例えば同窓会は同じ年代で集まりますし、小学校の統廃合も控えていますので、そういった集まりが開催されるように市が働きかけていってはどうでしょうか。

会 長 先ほどの発言は、「婚活イベントより〇〇をした方がよい」という趣旨だったと思いますが、その〇〇に当たるものが何であったかを確認させてください。

委員 F 縁結び事業、お見合い事業です。

魚津市でも取り組んではいますが、担当職員も専任ではなく、いろいろな仕事を抱えている合間にやっているような状況ではなかなか成果は上がらないと思います。

イベントよりも直接的な縁結びに力を入れてほしいということです。

先ほど事務局からいろんな意見があるという話がありましたが、そういう時期はもう過ぎていきます。効果が見込める事業にしっかりと力を入れていかないと、魚津で結婚して子どもが生まれて人口が増えるという状況を作ることはできないと思います。

会 長 潜在的に結婚したいというニーズはおそらくあるのでしょう。それをどうやって顕在化させるか、個人の問題だと放っておいてはなかなか進展が見込めないと、そういうことではないかと思います。

そろそろ予定時間がきていますので、もうお一人ぐらいどなたかございませんか。

委員 D 先日、商工会議所のCCRCということで、元気なお年寄りに魚津に住んでいただくという話がありました。そういった視点もあってもよいのではないかと思います。

それと総合戦略の実施部分についてですが、基本的に民間の力といいますか、公民連携は

もちろんしなければいけません、民間が主導しそれを行政が支える形が大事だと思います。

年度内にまちづくり会社を立ち上げる予定にしており、先進的な民間の動きをうまく事業化して支えていくようなやり方が、実施の部分においてキーポイントになるのではないかと思います。

会 長 ありがとうございます。皆さんからいただいた意見の中でポイントとなるような部分をおさらいしておきたいと思います。

- ・ 自己評価だけでなく第三者の評価を取り入れること（当委員会がそれを担う）
- ・ 費用対効果が見えるような資料の提示
- ・ 人口転出を防ぐための取組み
- ・ 民間を支援する視点での取組み

全員の御意見をお聞きすることができず申し訳ありません。

まだもう1つ議題があります。

議題（3）魚津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂案）について事務局から説明をお願いします。

事務局 （資料3について説明）

会 長 大都会からのUターン等を進める視点から、この事業は単に食のブランドではなく魚津のブランドイメージアップの取組みであり、ひいては人口問題の解決につながっていくという意識を持ってやっていただきたいと思います。

委員の皆さんから何かございますか。この機会に発言したいことでも構いません。

委員 G 今年度から北陸能開大の奨学金制度を設けていただき感謝しております。学生ですのでいずれ卒業するわけですが、少しでも多くの学生が魚津に定着するきっかけになればと思います。住まいも勤務先も全て魚津市という条件ではなく、勤務先は県内であればよいという点が特にありがたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

会 長 他にございますか。よろしいでしょうか。

それではこれで会議を終了したいと思います。

先ほど何点か申し上げた点については、事務局の方で対応してくださるようお願いいたします。

今後とも総合戦略の推進に向けて皆さんのご協力をお願いします。

課 長 秦会長、ありがとうございました。委員の皆様からいただいたご意見・ご提言を今後の取組みに活かしてまいりたいと思います。本日はお忙しいところありがとうございました。

15時08分終了